



WWF ジャパン
(公財)世界自然保護基金ジャパン
〒108-0073 東京都港区芝1-4-28
三田国際ビル3F

Tel: 03-3769-1711(代)
Fax: 03-3769-1717
www.wwf.or.jp

2023年6月29日

沖縄県石垣島&東京発オンライン合同記者会見 「石垣リゾート&コミュニティ計画」に関する 石垣市の違法行為に対する法的アクションと、環境影響調査の問題点

日時:6月29日(木) 13:30~14:30 /形式:ZOOMオンライン(沖縄県・石垣島の会場と中継)

沖縄県のアンパルの自然を守る会およびカムリワシの里と森を守る会、JELF(日本環境法律家連盟)、軟体動物多様性学会、日本魚類学会、日本甲殻類学会、日本サンゴ礁学会、日本野鳥の会、WWF ジャパンは、沖縄県石垣島と東京をつないだ合同のオンライン記者会見を実施します。

石垣島では、大規模ゴルフリゾートを建設する「石垣リゾート&コミュニティ計画」が進められており、現在、沖縄県による農地転用・開発許可等の審査が行なわれています。総面積約127haにおよぶ建設予定地周辺には、国の特別天然記念物カムリワシが営巣し、沖縄県希少野生動植物保護条例の指定種イシガキパイヌキバラヨシノボリ等の淡水魚を含む数多くの希少野生生物が生息し、豊かなサンゴ礁が残る名蔵湾とラムサール条約湿地・名蔵アンパルの集水域が広がっており、この地域における開発行為には特に生物多様性への配慮が求められます。

しかし、計画を推進している石垣市の行政行為には違法性が認められ、自然の権利カムリワシ弁護団は、石垣市長に対し住民監査請求を行なうこととしました。また事業者が行なった環境影響調査(アセスメント)報告には、次ページ以降に記載した各専門家指摘の通り、看過できない根本的な問題点が多々あり、万が一かかる手続きに基づき事業が実施されるようなことがあれば、環境アセスメントという制度が形骸化し、適切な環境アセスを前提とする他の許認可手続きにも影響することになります。それゆえに、これまで16団体が連名(*)で、必要な調査の実施を、許認可権者である自治体や事業者等に対し要請してきました。

世界的にもその価値が認められた沖縄の生物多様性を損なう計画の問題を広く伝え、カムリワシ弁護団による法的アクションの内容と目的、および事業者による環境影響調査の問題点について、各専門家から報告します。

「石垣リゾート&コミュニティ計画」に関する 石垣市の違法行為に対する法的アクションと、環境影響調査の問題点

【日時】6月29日(木)13:30~14:30

【内容】第1部 カムリワシ弁護団の結成と法的アクション

- ・石垣市長に対する住民監査請求 JELF(日本環境法律家連盟)理事 自然の権利基金代表理事 籠橋隆明
- ・石垣市民からの懸念 カムリワシの里と森を守る会 事務局長 井上 志保里

第2部 事業者による環境影響調査の問題点と求められる調査・対策

- ・全体の問題点 WWF ジャパン 自然保護室野生生物グループ 小田倫子
- ・カムリワシ保全の観点から 日本野鳥の会 常務理事 葉山政治
- ・魚類の観点から 日本魚類学会 会長 瀬能宏
- ・甲殻類の観点から サンゴ礁保全学術委員会委員長・日本甲殻類学会評議員 藤田喜久(録画による発表)
- ・貝類の観点から 軟体動物多様性学会 会長 石田 惣
- ・名蔵アンパル保全の観点から アンパルの自然を守る会 共同代表 島村賢正

質疑応答

【形式】ZOOMオンライン 及び 石垣市内の会場(市民連絡会事務所 〒907-0004 沖縄県石垣市登野城660)

■各専門家のコメント

▼JELF(日本環境法律家連盟)理事 自然の権利基金代表理事 籠橋隆明

「石垣市は『石垣市民の森』を開発区域に提供しています。石垣市民の森は条例によって整備された行政財産ですから、特定企業に用地を提供することはできません。また、ユニマット社は開発にあたって自社の責任で森林面積を確保しなければならないところ、石垣市がユニマット社のために無償で提供する行為は、市の財産の無償提供を禁じた地方自治法に違反します。裁判ではカムリワシにかわって予定地の自然保護を訴えるとともに、違法な財産提供行為の禁止を求めています」

▼カムリワシの里と森を守る会 事務局長 井上志保里

「石垣市は、今回の計画を実施するために、市有財産を一営利企業に無償で提供しています。陸上自衛隊石垣駐屯地内の旧ゴルフ場でも同じような問題があり、2023年4月に石垣市が敗訴したことも記憶に新しいです。これ以上石垣市が不公平な市政を繰り返さないよう、しっかり追求し、市民の権利が守られるために、住民監査請求を行ないました」

▼WWFジャパン 自然保護室野生生物グループ 小田倫子

「持続可能な開発とネイチャーポジティブの実現が世界全体で目指されている中、今回の石垣島における大規模ゴルフリゾート建設計画は、国際的にも貴重な自然環境に立地し、大量の地下水汲み上げやゴルフ場での農薬使用など非常に大きな環境負荷を与える事業内容に加え、事業者が必要な調査も対策も実施していないという状況ゆえに、SDGsにも生物多様性国家戦略にも逆行するものとなっています。各分野の専門家が指摘している必要な調査や対策が早急に実施されることを求めます」

▼日本野鳥の会 常務理事 葉山政治

「環境影響評価書でのカムリワシへの影響の評価、低減策は造成工事中の配慮にとどまっています。昨年には営巣が確認されており、具体的な施設供用後の配慮が必要です。施設供用後繁殖が確認された場合、どのような保全対策をとるのか。ネオニコチノイド系の農薬の使用による主要な餌資源であるカニ類その生息地であるアンパルへの影響を抑えるための措置や施設利用による攪乱防止策、その効果を判断するための事後調査の計画やそれを評価するための会議体の設置が必要です。こうした取り組みが行なわれない状況での事業開始は不適切と言わざるを得ません」

▼日本魚類学会 会長 瀬能宏

「昨年6月から開始した現地調査の結果、沖縄県希少野生動植物保護条例に基づく指定希少野生動植物種であるイシガキパイヌキバラヨシノボリと確実に同定できる個体群を確認できた生息地は、ウガドーカーラにあるたった一つの淵のみです。過去の調査ではイシガキパイヌキバラヨシノボリの生息状況を過大評価している可能性があり、ウガドーカーラではわずかな環境変化も個体群絶滅に繋がる恐れがあります。これを踏まえた計画の影響に関する科学的な調査と系統保存技術の確立が急務です」

▼軟体動物多様性学会 会長 石田惣

「今回行なわれた環境影響調査には、(1)現地の底質環境から見ても確認種数が明らかに少なく、影響評価に必要な十分な調査努力量を投下したか疑わしい、(2)重要種に明らかな種同定のミスがある、(3)砂底環境で希少種を多く含む分類群で十分な同定がなされていない、(4)そもそもラムサール条約の登録湿地であり多くの希少種が生息する名蔵アンパルでの調査が行なわれない、などから、評価手続の体をなしていないと認識しています」

▼アンパルの自然を守る会 共同代表 島村賢正

「ラムサール条約登録湿地である名蔵アンパルを未来に残す為にも、工事中の地表水や地下水、土壌等のアンパル湿地や名蔵湾への流入による動植物への影響をしっかりと検証することが必須です。また、リゾート施設に給水する1日700ト、1年間255,500トにも及ぶ多量の地下水汲み上げが短期的、中長期的にどのような影響を及ぼすのか、ゲリラ豪雨時の地表水や土壌、農薬流入についても調査が行なわれることを求めます」

■参考情報

「石垣リゾート&コミュニティ計画」について

- ・ 開発事業者：（株）ユニマットプレシヤス
- ・ ゴルフ場、ホテル、レジデンス、戸建ヴィラ複数棟、プールによる大型複合リゾートを建設予定
- ・ 一日約1000tの水を使用。うち約700tを地下水に頼る給水計画
- ・ ゴルフ場の維持管理のため、ネオニコチノイド系を含む複数の殺虫剤、除草剤を使用する計画
- ・ 100ha超の農地転用を必要とする計画
- ・ 石垣市が標榜する経済効果は250億円、しかし過大かつ誤った算定に基づき根拠に乏しい
- ・ [開発事業の「経済効果」を巡る問題点～石垣島ゴルフリゾート計画](#)

「石垣リゾート&コミュニティ計画」の問題点

- ・ 国際的にもその価値が認められた南西諸島の生物多様性の喪失につながるおそれ
- ・ 特別天然記念物カンムリワシの生息地の喪失
- ・ ラムサール条約湿地である名蔵アンパルと、サンゴ礁の広がる名蔵湾の海への影響
- ・ 世界的にも希少な魚類の生息する、石垣島の貴重な水系への影響
- ・ 八重山地方特有の景観、市民の憩いの場の改変
- ・ 石垣市によるユニマット社への土地提供（石垣市有地、市民の森など含む）に違法性あり

過去に提出した要請書

- [沖縄県議会議長宛て連名陳情書](#)（2023年6月6日）
- [沖縄県知事宛て連名要請書](#)（2023年4月17日）
- [「（仮称）石垣リゾート&コミュニティ計画」に対する緊急要請書](#)（2022年6月20日）
- [「（仮称）石垣リゾート&コミュニティ計画」に関する要請書](#)（2021年12月16日）
- [日本魚類学会の要請書](#)（2022年1月28日）

その他の関連発信情報

- [石垣島の大規模ゴルフリゾート開発計画 5つの問題点](#)（2022年6月20日）
- [開発事業の「経済効果」を巡る問題点～石垣島ゴルフリゾート計画](#)（2022年11月1日）
- [島の名前がつけられたハゼの未来](#)（2022年6月30日）
- [日本最南端のラムサール条約湿地「名蔵アンパル」をまもろう](#)（2022年1月25日）
- [世界湿地の日セミナー開催（動画あり）](#)（2022年2月2日）

（*）共同要請を行なっている団体： アンパルの自然を守る会、石垣島エコツーリズム協会、JELF（日本環境法律家連盟）、日本魚類学会、日本サンゴ礁学会、いのちと暮らしを守るオーバーたちの会、カンムリワシの里と森を守る会、カンムリワシ・リサーチ、世界自然保護基金（WWF）ジャパン、軟体動物多様性学会、日本自然保護協会、日本野鳥の会、日本甲殻類学会、日本湿地ネットワーク（JAWAN）、八重山ネイチャーエージェンシー、ラムサール・ネットワーク日本、我がーやいまの自然環境を考える会（五十音順）